

2006年公民科倫理1学期期末考查(3年1,2,3,4組) 正解と解説

大問	問題番号	正解	正答率	配点	大問	問題番号	正解	正答率	配点
1 75.9%	1	3	67	2	3 56.4%	26	1	77	2
	2	2	97	2		27	3	47	2
	3	6	70	2		28	1	54	2
	4	2	62	2		29	4	65	2
	5	3	87	2		30	3	57	2
	6	4	93	2		31	1	53	2
	7	4	61	2		32	4	35	2
	8	3	92	2		33	2	83	2
	9	2	56	2		34	1	77	2
	10	1	74	2		35	2	47	2
2 62.7%	11	4	90	2		36	8	60	2
	12	2	22	2		37	7	56	2
	13	1	80	2		38	1	75	2
	14	2	50	2		39	3	51	2
	15	4	72	2		40	2	38	2
	16	1	82	2		41	4	62	2
	17	2	76	2		42	2	38	2
	18	2	79	2		43	2	63	2
	19	4	67	2		44	2	33	2
	20	4	53	2		45	1	65	2
	21	1	57	2		46	2	59	2
	22	3	37	2		47	4	60	2
	23	4	62	2		48	1	61	2
	24	3	43	2		49	1	38	2
	25	4	71	2		50	1	55	2

・1学期期末考查度数分布

平均
62.6 点

最高点
94 点
(3名)

標準偏差
15.2

点数	頻度	累積
95~100	0	0
90~94	9	9
85~89	7	16
80~84	13	29
75~79	11	40
70~74	22	62
65~69	18	80
60~64	18	98
55~59	21	119
50~54	30	149
45~49	8	157
40~44	8	165
35~39	8	173
30~34	2	175
0~29	3	178

・1学期中間考查度数分布(前回)

点数	頻度	累積
95~100	0	0
90~94	5	5
85~89	6	11
80~84	15	26
75~79	12	38
70~74	35	73
65~69	30	103
60~64	26	129
55~59	17	146
50~54	26	172
45~49	7	179
40~44	8	187
35~39	5	192
30~34	3	195
0~29	2	197

2006年片岡担当倫理 1学期期末考査 解 説

考査全般について

前回の中間考査の標準偏差は約13でした。今回は15.2ということで、散らばりの度合いが大きくなったということは、成績の上下差が大きくなったことをあらわしています。前回のセンター試験の標準偏差が15.72でしたので、点数構成としては実際のセンター試験に近かったと言えるでしょうか。

大問構成からすると、正答率が56.4%と仏教の問題が難しかったようです。特に仏陀の教えの詳細な部分と大乘仏教の理論については、もう一度確認してみてください。

片岡ゼミ（倫理補習）のお知らせ

1学期早朝ゼミ（青年期・現代社会分野）

7月13日（木）7:20～8:15 社会科教室にて

7月20日（木）7:20～8:15 社会科教室にて

夏季ゼミ（西洋思想分野）

7月21日（金）スタート9:50～11:10（全10日）

第1問

問1 [1]正解 3 67%

大問1はイエスの教えに関する問題。①は律法の遵守ということですからイエスが批判した律法主義。②の絶対的帰依は「ムスリム」の本来の意味「絶対的に服従する者」を意味していますので、イスラム教です。④の神の像に対する礼拝は十戒の中でも禁じていますので、③の悔い改めと信仰のみが正解となります。

[2]正解 2 97%

隣人愛はさすがにほとんど全員が正解ですね。イエスの教えの核心は、「神への愛」と「隣人愛」でした。

問2 [3]正解 6 70%

この問題はモーセがセンター試験オリジナルで、アブラハムは私が付け加えました。モーセといえば出エジプトですが、選択肢に「エジプト」というキーワードは入っていません。出エジプトを「奴隷状態からの解放」という形で理解できていたかどうかは問われます。「王の宮殿で育てられた」というエピソードは資料プリント4ページに「ヘブライ人として生まれながら王妃の養子として育てられた」という所に対応しています。

[4]正解 2 62%

④をこの問題の正解として選んだ人が22%いました。エルサレムを首都としたイスラエルの王は「ダヴィデ」です。イエスはダヴィデの子孫なのだという系図が福

音書には描かれています。アブラハムといえば、約束の地カナンに向かって旅立った信仰篤き人。やっと思まれた跡取りの息子を、神の命令にしたがって焼き尽くす生け贄として捧げようとしたイスラエル民族の父祖ですね。他にも①は「喜捨」というイスラム教のキーワードと預言者という立場から、ムハンマド（マホメット）です。③はゴータマ・ブッダ。⑤はイスラエルの危機の際にあらわれた預言者たちです。

問3 [5]正解 3 87%

この選択肢はすべて聖書中の言葉です。どれが正解として適当かは文脈から判断します。ポイントとなるのは「審きよりも恵みを強調」「慈愛に満ちた天の父」ですので、父なる神の恵みを描いた選択肢ということで、③が正解となるわけです。①は「さばき」が強調され、②も十戒の言葉ですが、「妬む神」の姿が強調されています。④はイエスの言葉ですが、「剣をもたらすために来た」という言葉が、愛や平和と矛盾するようですが、文脈としては以下の通りになっています。資料集 p.56(4)神の義とともにチェックしておきましょう。

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っ
てはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たの
だ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその
父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに。こうして、自分の家
族の者が敵となる。わたしよりも父や母を愛する者は、わ
たしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者
も、わたしにふさわしくない。また、自分の十字架を担っ
てわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分
の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命
を失う者は、かえってそれを得るのである。」（マタイ 10
章 34～39節）

問4 [6]正解 4 93%

これも9割以上の正答率でした。イエスの教えに関する知識・理解を問う問題です。悔い改める罪人を赦す慈愛あふれる神のイメージをイエスが強調していたことをしっかり押さえておきましょう。

問5 [7]正解 4 61%

適当でないものを選ぶ問題です。④のみがサタンによる「神の子なら石をパンに変えよ」という試みに対するイエスの回答です。資料集 p.58「悪魔の誘惑」を参照してください。③の選択肢がピンとこない人はプリント p.16の5.をもう一度読んでおきましょう。

問6 [8]正解 3 92%

センター過去問であると同時に、私の考査の過去問でもあります。良くできていました。昨年解説にも書きましたが、この問題は「善きサマリア人のたとえ」を思い出せば、助けを必要としている「道ばたにたたずむ流浪者」こそ隣人愛の対象だから、③が間違っていることが分かります。倫理資料プリントの p.6の「善きサマリア人のたとえ」をもう一度読んでおきましょう。

問7 [9]正解 2 56%

大問1の中では一番正答率の低かった問題です。

「他にも二人の犯罪人がイエスと一緒に死刑にされるために引かれていった」(ルカ 23:32) から①が違うことが分かります。「ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。しかし人々は「十字架につける、十字架につける」と叫び続けた」(ルカ 32:20-21) ここから③が違うことが分かります。また、イエスの十字架上での死と復活を宣傳伝える福音書に、イエスは死んでいないなどと書かれているはずがありません。したがって、④ではありません。「そのときイエスはいわれた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ 32:34) ここから②が正解と分かります。

[10]正解 1 74%

これは単純な福音書に関する知識を問う問題です。トマスによる福音書も、ペトロによる福音書も存在していますが、新約聖書編纂の際に「正典(カノン)」に含められなかった「外典福音書」です。とくにトマスによる福音はグノーシス主義の影響が強いものとなっています。ちなみに、四福音書の中で一番成立時期が早いのが、マルコによる福音で、「マタイによる福音」と「ルカによる福音」がほぼ同じ時期に成立します。この3つは類似点が多く共観福音書とよばれます。それに対して、一番新しい「ヨハネによる福音」は思想・神学的により深められた内容になっています。

第2問

問1 [11]正解 4 90%

大問2はキリスト教の発展の問題です。この問題は用語としての「回心」についての知識・理解を問う問題です。これを「えしん」と読むと、仏教用語で「仏道に帰依すること」をあらわしますが、「回心」と読むとキリスト教の信仰を持つようになることを指します。また、①の懺悔(ざんげ)はもともと仏教用語で、宗教的反省をあらわしていました。それがキリスト教の告解(罪の告白)に転用されるようになったものです。②の免償とは罪に対する罰を軽減することなのですが、詳しくは宗教改革のところでもう一度触れます。

[12]正解 2 22%

今回の試験の最低正答率問題です。テルトゥリアヌスを選んだ人が62%でした。私のプリントではヒエロニムスについて詳しく説明していませんが、資料集のp.57の「福音書」の解説に登場しています。ヘブライ語・ギリシャ語で書かれた聖書のラテン語訳を完成させたのがヒエロニムスです。覚えておきましょう。ちなみに、ペラギウスとは、アウグスティヌスと激しく論争した人物で、神の恩寵ではなく人間の自由意志による善行によって救済されると唱えて異端とされた人物です。テルトゥリアヌスとオリゲネスについてはもう一度プリントを読むこと！

問2 [13]正解 1 80%

②を選んだ人が12%いましたが、「輪廻転生」(生まれ変わり)の考え方はキリスト教にはありません。人間の死は原罪に対する罰であるという考えに基づいて、イエスの十字架上での死と復活は、死ななければならぬすべての人間に対して、「復活の希望」を与えるものである。というのがキリスト教の解釈です。

問3 [14]正解 2 50%

ちょっと難しめの問題。メシアとはどのような意味か？もともとは「油を注がれた者」としてのイスラエルの「王」をあらわしていましたが、ギリシア語では「キリストス」と訳され、「救世主」の意味でもつかわれます。イエスこそがメシアだという考え方がキリスト教ですが、天の父なる神をメシアとは呼びません。

問4 [15]正解 4 72%

ペテロ(ペトロ)については、12人の使徒のリーダーとして初期の教会の中心人物であったということを押さえるとともに、ハズレ選択肢の区別が付いていれば簡単な問題でした。①は復活のイエスに出会って回心したパウロ。②は使徒トマス。イエスのわき腹の傷に自分の手を差し込んでその身体を確かめたともいわれ、「疑い深いトマス」などとも言われます。(センター試験には出ないでしょう)③は銀貨30枚でイエスを裏切ったとされる、イスカリオテのユダですね。

問5 [16]正解 1 82%

昨年も出題した過去問です。パウロといえば、イエスの十字架上での死を全ての人間の贖罪の生け贄として説いた人として知られていますね。また、それを信じることによって、罪があながわれるとする信仰義認説もパウロの主張です。

問6 [17]正解 2 76%

これまた、パウロのキーワード！キリスト教の三元徳です。正直言って、この問題が出来ていない人は、勉強が足りない。倫理受験を予定している人は当然出来ていなければならない問題です。資料集でもプリントでも紹介したパウロのコリント信徒への手紙1の中の「愛の賛歌」の一部ですが、「信仰(fides)、希望(spes)、愛(caritas)」の三つは、中世の神学で、「三元徳」(アウグスティヌス)、あるいは「神学的な徳」(トマス=アキナス)と呼ばれ、プラトンの「知恵、勇気、節制、正義」という「四元徳」とあわせてキリスト教では七元徳と呼んでいます。

問7 [18]正解 2 79%

これは、世界史の問題といってもいいですね。303年にキリスト教を迫害する勅令を出したのが①のディオクレティアヌス。380年カトリック派キリスト教を国教化する勅令を出したのが③のテオドシウス。マルクス・アウレリウス帝は五賢帝時代のストア派哲人皇帝です。ということで、正解はコンスタンティヌス帝によるミラノ勅令でした。ちなみにナント勅令とは1598年にフランス国王アンリ4世が発布したもの。新教徒に対してカトリック教徒とほぼ

同じ権利を与えて、個人の信仰の自由を認めたものです。全然時代が違う！

問 8 [19]正解 4 67%

これも過去問ですが少し正答率が低いかな？ アタナシウス派が主張した三位一体とは、父なる神と子なるイエスと聖霊が、位格（ペルソナ）は3つとも異なるが、その本質・実体（ウーシア）は同一であるとする説です。②のように、イエスも被造物であるとする立場が、アリウス派の取ったものです。

問 9 [20]正解 4 53%

今回一番ショッキングだった問題です。ローマ・カトリック教会とギリシア正教会については、プリントには記載していませんが、授業の中でしっかりと解説をしたつもりでした。いわば、サービス問題のつもりです。それなのに、東方正教会の「正統」に対して、カトリック教会が「異端」と答えた人が何と 32%もいたとは！ 現ローマ教皇ベネディクト 16 世と千葉県市原市出身である東京教区のペトロ岡田武夫大司教にも申し訳が立ちません(T_T)。教科書 p.31 の脚注にもあるように、カトリックとは普遍的・世界的という意味です。「聖なる普遍の教会」が「聖なる異端の教会」じゃあシャレになりませんね。③を選んだ人は悔い改めてください☹。

問 1 0 [21]正解 1 57%

これも、昨年の過去問なのですが、意外にできてませ〜ん。昨年の解説を載せておきま〜す。（やる気ナシ）アウグスティヌスの主張は神の「恩寵のみ」によって原罪から救済に向かうことができるということですが、「恩寵（gratia）」がここでは「恩恵」と訳されていました。17%が④を選びましたが、人間の理性の営みによって救済が獲得されるのではなく、神の「恵みのみ」によって救済されると考えます。②も 12%いましたが、人間の自由意志によって救済されるという考え方はペラギウス主義といわれ、アウグスティヌスが糾弾した思想です。自分の持っている知識に対する理解の深さが問われるこの手の問題を解けるようになりましょうね。

問 1 1 [22]正解 3 37%

これは難問でした。しかし、今回出題しなかったグノーシス主義の思想を理解していれば解けた問題です。旧約の神が物質を創った悪の神、新約の神を霊的な善の神と見る極端な霊肉二元論の立場は、マルキオンなどのキリスト教グノーシス派の異端思想です。そこから解くしかない難問といえるでしょうが、アウグスティヌスの『神の国』は今後センター試験でも狙われそうな予感がしますので、しっかり復習しておいてください。

問 1 2 [23]正解 4 62%

これもまた定番となったトマス・アクィナスの過去問です。①の「永遠の相のもと」とは近代哲学合理論哲学の流れをくむスピノザのキーワードです。②はアヴェロエス主義などの二重真理説。③は宗教改革の思想家カルヴァンの救済予定説ですので、トマスの正解は④の信仰と理性の統合

（調和）ということになります。

問 1 3 [24]正解 3 43%

これはトマス・アクィナスのプロフィールを問う難問なのですが、センター試験で世界史と倫理を使う人は正解したいですね。まず、托鉢修道会って知ってますか？ 13世紀初めの西ヨーロッパで革新的なキリスト教信仰生活をめざした新しい形式の修道会を指します。フランシスコ会、ドミニコ会などが重要なものなのですが、トマス・アクィナスはイタリア、ドミニコ修道会の出身です。③のイギリス、フランシスコ修道会出身とされているプロフィールはウィリアム・オッカムのものです。

問 1 4 [25]正解 4 71%

さて、倫理・世界史受験者は 10 月には①〜④を見て、全ての著者を答えることが出来るようになっているはずです。（ちゃんと勉強していればね）今の段階では、当然③以外は全部知っているはずですね。①『告白』はアウグスティヌスの著作として有名ですが、社会契約説でも有名なルソーにも同名の著作があります。②『自然学』はアリストテレスの著作。③『キリスト教綱要』は夏の補習と2学期後半に学ぶ宗教改革者カルヴァンの著作です。ということで正解は④『神学大全』です。

第 3 問

問 1 [26]正解 1 77%

仏教思想の最初の問題も世界的な知識を問います。仏法を保護したマウリヤ朝の王は①アショーカ王ですね。②のアジャセは資料集 p.73 の解説「阿闍世王」を参照してみてください。③スドーダナは浄飯（じょうぼん）王とも言われるゴータマ・ブッダの父親です。④カニシカ王は仏法を保護したといわれる、クシャーナ朝の王です。

[27]正解 3 47%

大乘仏教運動はどのような集団の中から発生したかという問題です。②の大衆部を選んだ人も 34%いましたが、正解は在家信者です。大乘仏教運動は紀元前 1 世紀頃から始まった仏教運動なのですが、その原点は仏陀の遺骨を納めた仏塔の崇拝者である在家信者の中から生まれたものであるとされています。かつては大衆部が大乘仏教運動の源流ではないかと見られていたこともありましたが、現在ではその説は否定されています。部派仏教（小乗仏教）の一派大衆部は玄奘三蔵法師がインドを訪れた頃までは現存していたといわれています。

問 2 [28]正解 1 54%

バラモン教とヒンドゥー教の違いについての問題です。②のブラフマー・ヴィシュヌ・シヴァはヒンドゥー教の神。③は現代もヒンドゥー教には身分制度があるから誤答。④の『マハーバーラタ』や『ラーマーヤナ』はいずれもヒンドゥー教で重要とされる叙事詩です。①が正解であることは、プリント p.24 あたりで説明しています。間違えた人はチェックしておきましょう。

問3 [29]正解 4 65%

ウパニシャッドとは秘義や奥義という意味を表し、ヴェーダ文献の最終部門にあたります。ちなみに①の「知識」はヴェーダの元々の意味にあたります。

問4 [30]正解 3 57%

「梵我一如」というウパニシャッド哲学の中心概念を理解できているかどうかを問う問題です。選択肢中の「宇宙的原理」という概念が「ブラフマン=梵」をあらわしているということが読み取ることができれば難しい問題ではありません。②を選んでしまった人は、バラモン教のウパニシャッド哲学仏教の思想の区別がついていない人です

問5 [31]正解 1 53%

業(カルマン)とは、本来「行為」という意味です。善人も悪人も死んでしまえば皆同じというわけではなく、来世においては前世の行為(業)の善悪に応じた転生が行われるというのが、ウパニシャッド哲学に源泉をもつインド思想の特徴です。

問6 [32]正解 4 35%

これは正答率が低い問題となりました。なぜか②のプーラナ・カッサパの人气が高く、33%つまりちょうど3分の1の皆さんがこれを選びましたが、彼は善行も悪行も業として報いることはないとする道徳否定論を説いた六師外道の一人です。そもそも、六師外道とは仏教の道から外れた六派の自由思想家集団をあらわしているのですから、④のゴータマ・ブッダを外さなければなりません。カトリックを異端視したり、仏教を外道視したりとは、失礼極まりないですぞ！

問7 [33]正解 2 83%

これは最新のセンター過去問ですが良くできていました。ジャイナ教といえば極端なアヒンサー(不殺生)ですが、不殺生の考え方自体は仏教の五戒の一つ不殺生戒の中にも見えますし、ヒンドゥー教徒のマハトマ・ガンディーの思想の中にも非暴力という意味でアヒンサーが使われています。教科書p.156のガンディーに関する記述もチェックしておきましょう。

問8 [34]正解 1 77%

ゴータマ・ブッダの生涯に関する基礎的な知識を問う問題です。①が正解ですが他の選択肢の間違った点を見てみましょう。②は葬列ではなく「沙門」出家修行者を見て出家を決意したといわれています。③は苦行をやめ瞑想修行中に悟りを開いたとされています。④は40日間眠り続けたり、昇天しているところが間違っています。また仏滅の地はサールナートではなく、クシナガラです。

問9 [35]正解 2 47%

八苦のうちの八つ目が五蘊盛苦ですが、五蘊とは色・受・想・行・識といわれる人間の構成要素のことです。

[36]正解 8 60%

貪、瞋、癡の三大煩悩を三毒といいます。人間には他にもたくさん悪しき心があるわけですが、それを総称して煩悩と呼びます。

[37]正解 7 56%

十二支縁起(十二因縁)とは無明(無知)に始まって苦しみが生成するまでの12の段階をあらわしたものです(資料集 p.71)が、その段階の中に、感覚によって渴愛が生じ、渴愛によって執着が生じることが描かれています。

問10 [38]正解 1 75%

涅槃(ニルヴァーナ)という言葉は、もともとは生命の炎の消え去った状態のことを指していましたが、②の「生命を失った状態」もあなたが間違いでないのですが、「涅槃を実現する」という本文の文脈からすると、ここでは「煩悩の火を吹き消した状態」すなわち悟りを開いた状態のことをあらわします。

問11 [39]正解 3 51%

この問題はセンター試験で出題された良問です。四諦を正しく理解しているかどうかが問われます。①が誤答選択肢であるのは、苦諦とは「すべてが苦しみである」ということだからです。この選択肢は集諦の説明です。②の集諦は苦しみの原因を説明すべきところですが、八正道へ「集」中するという間違った説明をしています。③が正解で、④は正しくは八正道を語るべきところを「道」理について説明しています。

問12 [40]正解 2 38%

この問題は資料集 p.72 の阿含經典をからつくりました。縁起説が「すべてのものは、支え合いながら因果関係に結ばれている」という意味で正しく理解していれば、互いに支え合う(=相依って立つ)二つの葦束のたとえが縁起説をあらわしていることがわかります。③も解釈のしようによっては、縁起説の説明ととれなくもないですが、ここでは「貴賤は生まれではなく、行為によるのだ」ということです。本文にもあげられている「四姓平等」をあらわすものと考えた方が適切です。

問13 [41]正解 4 62%

これもセンター試験の良問ですね。四諦・八正道・四苦・五戒をすべてしっかりと理解していれば解ける問題です。八正道の中に「正語」があり、五戒の中に「不妄語戒」があることを理解している人が、④を正解として選ぶことができます。

問14 [42]正解 2 38%

原始仏教→根本分裂による部派仏教→大乘仏教運動の成立。という流れは理解できていたかな？ 明らかにおかしいのは大乘は菩薩乗と呼ばれることもあり、「菩薩」は大乘仏教運動のキーワードともいえます。一方、部派仏教で理想とされる修行者像は阿羅漢(羅漢ともいう)だったはず。それが「菩薩」として説明されている②が適当ではありません。

問15 [43]正解 2 63%

托鉢とは乞食(こつじき)ともいわれ、原始教団の律蔵に規定されていました。大乘仏教では禅宗の雲水と呼ばれる修行者が托鉢を行うこともあるようですが、一般的には南伝仏教で今日も行われているものです。①の經典崇拜や

②の如来蔵説。④の大きな乗り物の考え方が大乘仏教の特徴といえるでしょう。

問 1 6 [44]正解 2 33%

これはわずか3分の1の正答率でした。「阿頼耶識」というキーワードから[B]が唯識思想であることを理解していた人は60%でしたが、なぜかその代表的思想家を選ぶことができない人が多かったようです。唯識派を確立した思想家といえば、無着（アサンガ）と世親（ヴァスバンドゥ）です。忘れないように！ちなみに③の菩提達磨を選んだ人も26%いましたが、彼はいわゆる達磨大師で資料集 p.92 の中国仏教のところで説明されています。インドから中国に禅宗を伝えた人です。

[45]正解 1 65%

『中論』を著した中観派の思想家が「竜樹（ナーガールジュナ）」です。しかし、本文では「中論」「中観派」のキーワードを入れていませんので、思想内容からそれを判断する必要があった問題です。

問 1 7 [46]正解 2 59%

[47]正解 4 60%

[48]正解 1 61%

いずれもほぼ6割の正答率でした。大乘仏教の重要な教説を理解しているかどうかを問う問題です。「すべての衆生に仏性がある」という一切衆生悉有仏性という考え方は「如来蔵説」といいました。「中観派」は般若經典の「空」の理論をさらに哲学化・論理化したものです。「唯識派」はあらゆる存在は唯(た)だ識すなわちこころのはたらきで表された仮の存在にすぎないとみる唯心論の説です。

問 1 8 [49]正解 1 38%

世親（ヴァスバンドゥ）と竜樹（ナーガールジュナ）は混同されることが多いですね。繰り返し説明しますが、「唯識世親の中観竜樹」です。④を選んでしまった人は「唯識世親の中観竜樹」と10回唱えなさい！ きっと功德があるはずですよ。

問 1 9 [50]正解 1 55%

般若經典における「般若」とは「智慧」のことであるということと、六波羅蜜の中でも最も重要な波羅蜜が般若波羅蜜であることを理解していれば解ける問題です。ハズレ選択肢はいずれも他の波羅蜜をあらわす言葉ですが、とくに覚えておく必要はありません。②檀那（だんな）は日本語にもなったことばですがもともと「布施」という意味です。③禪那（ぜんな）とは禪定のこと。④毘梨耶（びりや）とは精進のことをあらわします。

以上！ しっかり復習しましょう。